

2021 年度事業報告

2021 年 7 月 1 日～2022 年 6 月 30 日

1. 評議員会・理事会の開催

2021 年度は理事会を 2 回、評議員会を 1 回開催した。開催概要は以下のとおりである。

第 8 回理事会

日時・会場 2021 年 8 月 25 日（水）16 時 00 分～17 時 30 分

ATR 第 2 応接室、大阪大学東京オフィス、福知山公立大学およびサントリー
グローバルイノベーションセンター本社を Web 会議システムにより結んで開
催

出席役員 木戸出正継代表理事、阪田正和理事、中川雅永監事（以上 ATR 第 2 応接室）
栄藤稔理事、高橋賢藏理事、西田豊明理事（以上 Web 会議システムにて出席）、

議事 ①2020 年度事業報告の件（決議事項）
②2020 年度決算の件（決議事項）
③2021 年度事業計画の件（決議事項）
④2021 年度予算の件（決議事項）
⑤2021 年度定時評議員会招集の件（決議事項）

2021 年度定時評議員会

日時・会場 2021 年 9 月 28 日（火）午前 10 時 30 分～11 時 55 分

ATR 第 2 応接室、大阪大学産業研究所、奈良先端科学技術大学院大学、電波技
術協会事務所、吉田評議員宅および葉原評議員宅を Web 会議システムにより結
んで開催

出席者 木戸出正継代表理事、阪田正和理事、中川雅永監事（以上 ATR 第 2 応接室）
吉田進評議員、葉原耕平評議員、松本正夫評議員、八木康史評議員、（以上 Web 会
議システムにて出席）

議事 ①2020 年度事業報告の件（決議事項）
②2020 年度決算の件（決議事項）
③2021 年度事業計画の件（決議事項）
④2021 年度予算の件（決議事項）

第 9 回理事会

日時・会場 2022 年 1 月 26 日（水）15 時 00 分～16 時 30 分

ATR 第 2 応接室、大阪大学東京オフィスおよび高橋賢藏理事宅を Web 会議シス
テムにより結んで開催

出席役員 木戸出正副代表理事、阪田正和理事、中川雅永監事（以上 ATR 第 2 応接室）

栄藤稔理事、高橋賢藏理事（以上 Web 会議システムにて出席）、
議事 ①2021 年度受託調査の概要（報告事項）
②協会の上半期収支実績（報告事項）
③社会貢献活動の状況（報告事項）

2. 受託調査研究の実施

ATR より、2021 年 12 月 23 日から 2022 年 6 月 30 日までを契約期間として「21 世紀社会を支えるコミュニケーション基盤技術課題の調査」を受託し実施した。この調査のため、奈良先端科学技術大学院大学の野島秀雄教授に「新生活様式における ASSAI（芸術的自己超越 AI）技術のイメージ構築と新応用分野の開拓に関する調査」を、また、同志社大学の田村晃裕准教授に「状況に合わせるマルチメディア要約技術のイメージ構築と応用分野の開拓」についての執筆を依頼し、これらの報告をとりまとめて期日に ATR に納品した。これらの概要は以下のとおり。

(1) 芸術的自己超越 AI 技術（ASSAI : Artistic Super-Self Artificial Intelligence）

①新生活様式で人間と共生する ASSAI 技術のイメージ構築

現在、急速に進展している情報通信基盤技術と心理学や美学等の人文社会科学との融合により人間と共生する未来の ASSAI 技術のイメージを構築する。特に、アーティスト・デザイナーと意思疎通できる AI 研究者や神経美学等の芸術分野における専門家との議論により、感性から共鳴や共感を創出して自己超越を実現する新しい AI 技術の新しい発展方向性を探索した。

②ASSAI 技術の新応用分野と具体的な研究課題

構築した ASSAI 技術のイメージを基に新応用分野の調査を行う。新規事業・新産業の創出を図るとともに、既存の基盤産業の再成長化を実現する新応用分野を開拓する。そして、調査を踏まえ、ATR が今後取り組んでいくべき具体的な研究課題を専門家の意見を基に取りまとめる。

(2) 状況適応型マルチモーダル要約自然言語生成技術

①新しい情報通信社会の基盤を構成する自然言語処理技術のイメージ構築

使用する状況に応じて生成する自然言語を変化させることができ、また、入力として画像や動画、数値データといった自然言語以外のデータも扱うことができる「状況適応型マルチモーダル要約自然言語生成技術」という新たな自然言語処理コア技術の創出と社会実装を目指す。自然言語生成において指定された属性（ペルソナや出力テキストの丁寧さ、難易度、トピックなど）で出力テキストを制御する「制御可能な自然言語生成」に関する研究が、注目されているが、教師データがない場合や少ない場合がほとんどである。また、入力としてテキストに加えてテキスト以外のデータ（画像や動画、数値データなど）も受け付けるマルチモーダルな自然言語生成に関する制御可能なモデルの研究はほとんどない。一方で実用場面では、複数種類のデータを活用したい場合が多い。

さらに、現在の制御可能な自然言語生成では、制御する属性は予め規定されておりユーザ

から与えられることを仮定している。

②新応用分野と具体的な研究課題

具体的な応用分野を開拓し、その市場環境を調査していく。制御すべき状況を自動認識して出力テキストを変化できる状況適応型マルチモーダル自然言語生成システムを構築し、応用例を具現化し社会展開の道を探索していく。

3. 社会貢献活動

当協会は、非営利型一般財団法人として、定款において「情報通信等の分野の研究開発の一般への啓発およびこれらの分野の研究者の育成」等の社会貢献を行うことを目的の一つとしている。過去には地元の精華町東光小学校においてプログラミング教育の支援を行い、終了した。2021年度の活動状況は、以下のとおりである。

- (1) 将来の情報通信技術者を目指す児童・生徒数の拡大のため、地元の山城地域で実施されている児童の作文コンテストに協賛し、情報通信に関わる優秀な作品に賞を出すこととしたが、今年度は関連する作品が少なく、授賞は見送った。
- (2) こども達を含む一般人の情報通信技術に対する夢の未来像の把握のため、情報通信社会の夢に関する作品（年齢・ジャンルを問わず）の募集を住民一般にも行った。当協会のホームページ、けいはんなポータルのメーリングリスト及び関西文化学術研究都市推進機構の広報誌「けいはんな View」で告知を試行したが残念ながら応募がなかった。
- (3) その他、2025 大阪・関西万博に向けた「時空を超えるけいはんな」市民プロジェクトを支援するため、公益財団法人京都地域創造基金にこのプロジェクトのための寄付窓口開設の申込を当協会から行い、認められた。京都地域創造基金に集まった寄付金の範囲で同プロジェクトに活動資金が提供される。